

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
実社会対応プログラム最終評価結果表

課題	制度、文化、公共心と経済社会の相互連関
研究テーマ名	効果的・持続的な災害伝承を目的にした拠点構築手法のモデル化と実践的研究
研究代表者	佐藤 翔輔
所属機関・部局・職	東北大学・災害科学国際研究所・准教授
研究成果の総合評点：A	
研究成果の評価に係る所見	
<p>本研究は、災害伝承を目的とした拠点構築モデルを、マーケティング・コンテンツ編集・意識変容の三側面から設計し、東日本大震災の被災地である宮城県内において実践をおこなったものである。その結果、「3.11 メモリアルネットワーク」にみられるような実務者との連携が構築され、国土交通省によって進められている石巻市津波復興祈念公園において本研究で得られたデータが活用されるなど、数多くの具体的な成果と、波及効果がみられた。</p> <p>なお、3つのモデルについて、その成果も含めて、相互の関連が分かりにくかった点は残念である。また「災害伝承の拠点構築に関するガイドライン」の内容についても更なる検討があれば、より一層の発展が見込まれたらう。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い